

第403回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成21年7月1日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送会議室

3. 委員の出席

○委員総数 9名

○出席委員数 8名

○出席委員の氏名(敬称略・委員は50音順)

委員長 宮本 忠長

副委員長 中村 重一

副委員長 松田 幸子

委員 大橋 俊夫

委員 小出 貞之

委員 塚田 芳樹

委員 中條 智子

委員 丸山 仁也

4. 放送事業者側出席者

相崎 由松(代表取締役社長)

瀬木 潔(代表取締役副社長)

堀 眞一(代表取締役専務・報道局制作局担当)

関 義仁(取締役編成局・番組審議会担当)

松田 敏和(編成局長)

飯 嶋 憲彦(編成局編成部長兼視聴者室長)

南 直敏(制作局長)

宮 嶋 聡(制作局制作部ディレクター)

山 口 慶吾(番組審議会事務局長)

5. 議題

NBS月曜スペシャル

「屋敷のおばあちゃんー栄村秋山郷ー」

6月22日(月)午後7:00~7:54放送

6. 番組の内容

長野県最北の地で有数の豪雪地帯、栄村秋山郷の集落の一つ、屋敷地区に住む二

人のおばあさんを中心に、厳しい自然や高齢化、過疎化の中でお互いに助け合いながら暮らす住民の姿を追ったドキュメンタリー。

7. 審議の概要

- ・働くことが好きで、歌ったり踊ったり楽しく暮らす中に、高齢者の過ごし方が見えた。また、一人暮らしの高齢者を近所の人たちが支えていることが伝わってきた。
- ・厳しい自然の中で暮らす人たちの生き方の中に、今の日本に欠けている部分を感じた。
- ・見終わって、心が温まり癒された感じのする番組だった。
- ・集落自体が文化財になっていると感じた。過疎問題の深さを感じると同時に、日本人の原点といえるものを見守るだけでなく、どうやって継承すべきかと考えさせられた。
- ・冬の厳しさを交えて、明るく前向きに生きているお年寄りの姿が取材できていた。地域の人たちの交流が希薄になっている今の社会に一石を投じた内容の濃い番組だった。
- ・長い冬の生活の中でできあがった濃厚な人間関係に、お年寄りが一人でも生きていける農村の生活の知恵を感じた。地区の将来を考えると、今回の映像は民俗学的にも、一つの資料になるのではないか。
- ・視聴者自身に自分の生き様を問いかけ直させるような強烈なメッセージがあった。二人のおばあさんが何気なく語っている言葉が飾らず、気負わず、新鮮だった。
- ・一人の人間が生まれて生きて死んでいくということはどういうことなのか、哲学的なものも感じた。
- ・おばあちゃん達が山の集落で元気に過している姿と同時に、長野県の抱えている限界集落の問題を深く考えさせられる。皆が助け合って生きていく昔懐かしい日本の原風景を感じさせる番組だ。